

第1章 研究について

研究テーマ

『 接続期の教育における学びを探る 』 ～接続期カリキュラム（試案）の作成～

1. 研究テーマについて

本園では、平成26年度より研究テーマを「幼児期の教育における学びを探る」とし、幼小接続を目指し研究を積み重ねてきた。平成26年度は石川県の保幼小における幼小連携・接続の実態調査を行った。平成27・28年度は幼児期の教育と小学校教育に共通する視点の1つとして「主体的・対話的で深い学び」に着目し、幼児期における「主体的・対話的で深い学び」についての研究に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」を促す環境の構成と教師の援助について明らかにした。新幼稚園教育要領（以下、新要領と記す）では、育みたい資質・能力が幼児教育と小学校以降の学校教育を貫く3つの柱として示されている。さらには、幼稚園教育と小学校教育の懸け橋となる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10の項目が記されていることもあり、幼小連携・接続は取り組むべき今日的課題であると言える。本園はこれまでに幼児・児童の交流活動等の実践を積み重ねてきた。現在の状況は、“子供や教職員が交流し、協力して実践や研修や情報共有を行うこと、その関係作り”¹⁾という「幼小連携」の段階にあると考える。平成32年度から全面実施となる新小学校学習指導要領にも、“幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること、特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること”と書かれており、幼小の双方から連携・接続に取り組むことが求められている。“幼児期から児童期への発達と学びの連続性を保障するため、教育課程も含めた幼児教育と小学校教育との円滑な接続を目指すこと、その取組”²⁾である「幼小接続」としていくためには、子供や教員同士の交流などに留まるのではなく、教育課程をつなげていくことが必要であると考え。

教育課程を含めた円滑な接続としていく上で、全国の自治体や附属幼稚園・小学校をはじめ、諸所で作成・活用されているように、「接続期カリキュラム」は一定の役割を果たすと考えられる。5歳児後期から第1学年前期が一般的に「接続期」とされるが、5歳児後期の幼児の姿は言うまでもなく、3歳児から積み重ねられた教育が土台となっている。よって「接続期」のカリキュラムを作成する際にも、3歳児からの教育を踏まえて作成する必要がある。そこで新要領に基づき教育課程の編成、指導計画の作成を行い、その先にある子供達の育ちを支える接続期のカリキュラムを作成することで、接続期の教育における学びを探り、その学びをつなぐ在り方について研究と実践を深めていくことにつながると考え、本テーマを設定した。

2. 研究の目的

- (1) 教育課程の編成，指導計画の作成を行う
- (2) 接続期カリキュラムの試案を作成する

3. 研究の方法

- (1) 日々の保育実践や保育記録等から指導計画について協議し，作成する
- (2) 作成した指導計画を基に，教育課程について協議し，編成する
- (3) 指導計画・教育課程の作成・編成の際の協議内容及び新指導計画・新教育課程を活用し，接続期カリキュラムの試案を作成する

4. 研究の内容

(1) 指導計画について

日々の保育実践や記録等を基に総合的に内容を検討すると共に，以下の点を考慮し見直しを行った。5～6ページにその例を示す。

i) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの見直し

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進は，今回の改訂において幼児期から小学校以降の教育の全てにおいて共通して取り組むべき課題として示されている。本園では平成27・28年度に，幼児期における「主体的・対話的で深い学び」について研究に取り組み，「主体的・対話的で深い学び」を促す環境の構成と教師の援助を明らかにした。これらの視点から指導計画のねらい及び内容，環境の構成と教師の援助について見直し，改善を図った。

ii) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を用いた評価及び改善

幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図るべく，子供の姿を共有するきっかけとして，新要領に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。これは同時に，幼児教育において育みたい資質・能力を総合的に育てているかどうか，園での取り組みを客観的に評価し，改善していく手掛かりとなるものでもある。指導計画を見直していくにあたり，内容の部分を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示す10の姿と照らし合わせ，必要な内容について協議し改善を図った。

iii) 全体的な計画としての見直し

全体的な計画の作成として，教育課程を中心に各教育計画を関連させ，一体的に教育活動が

展開するよう、以下の点について見直しを行った。

ア) 「健康・安全」の項目の見直し

「健康・安全」の項目を「健康・安全・食育」とし、保健指導計画と関連させながら、それぞれの発達に応じた内容に見直した。

イ) 5歳児における里山活動及び幼小交流活動の編入

本園では平成25年度から5歳児が金沢大学角間の里山ゾーンを活用した活動に取り組んでおり、計画・実施・振り返り・再計画の積み重ねにより、年間計画や実施内容についても確かなものとなってきた。また、5歳児と1年生との交流活動についても、年間計画を作成し、学年同士の常在的な活動として取り組んでいる。それらを5歳児の指導計画に編入した。

幼児の姿

- ・リレー遊びでは勝敗を意識して、懸命に走ったり、大きな声で応援したりする姿が見られる
- ・のびのびフェスティバルの係の仕事や練習をそれぞれのグループに分かれて一生懸命に行っている姿が見られる
- ・サッカーやリレー遊びなどでは体を十分に動かしながら楽しんでいる
- ・リレーの作戦タイムなどを通して、考えを出し合いながら話し合いを進めていこうとするようになる
- ・3、4歳児年下児と関わる場面では、5歳児としての自覚をもち、活動をリードしようとしたり、優しく教えてあげようとしたりする姿が見られる
- ・園庭の固定遊具と構成遊具を組み合わせ、迷路や基地などを作って遊ぶ姿が見られる
- ・園庭の草花や木の実を素材とし、ままごと遊びを楽しんでいる
- ・収穫した稲が米になる様子を、興味をもって見る姿が見られる
- ・サツマイモ畑の草取りや芋掘りでは、畑の変化に気付いたり、収穫を喜んだりする姿が見られる
- ・1年生との交流活動では、ペアの1年生の名前を覚えた幼児が増え、活動を楽しみにしている様子が多い。1年生に自分の考えを伝える姿も見られる

ねらい

- ・友達と一緒に取り組んだ活動の経験を生かし、共通のイメージや目的をもって活動する
- ・自分の思いを言葉で伝えたり、友達の思いを受け入れたりしながら活動する
- ・自然の変化に気付き興味や関心をもって見たり、身近な動植物に進んで関わったりする

内容

- ・いろいろな運動遊びに興味をもち、体を十分動かしたり、挑戦したりして遊ぶ
- ・のびのびフェスティバルに向けての練習や係活動に取り組む
- ・自分の力を精一杯発揮したり、友達と力を合わせて活動したりする
- ・3、4歳児年下児との関わりを通して、5歳児としての自覚を強める
- ・遊び方やルールについて気付いたことを話し合ったり、自分たちなりの新しいルールをつくったりする
- ・遊びに必要な物を自分で作り、利用する
- ・園庭の固定遊具や構成遊具などを工夫して組み合わせ、遊びの場を作ったり、遊び方を考えて遊んだりする
- ・秋の虫を捕まえたり、調べたりする
- ・秋の草花や木の実を使っているいろいろな物を作ったり、遊んだりする
- ・脱穀について知り、いろいろな道具を使って自分たちで稲を籾と糠に分ける
- ・自分の考えを友達や教師に分かるように話す
- ・友達の話をしっかり聞き、思いを受け入れる
- ・ペアの1年生と一緒に秋の自然物を集めたり、それを使って遊んだりする

環境の構成 (○) と教師の援助 (◎)

- ◎遊びに応じた場所の取り方や安全な行動の仕方について気付くような声かけを心がける、声を掛ける
- ◎のびのびフェスティバルに向けて一人一役を担い、年長としての自覚を強める◎5歳児としての自覚を高めることができるよう、のびのびフェスティバルに向けて一人一役に取り組めるようにする
- バトン、ライン引き、リズム表現で使うものなど、のびのびフェスティバルに関する用具の置き場所を決め、幼児が必要に応じて使えるようにしておく○幼児が必要に応じて使えるよう、バトン、ライン引き、リズム表現で使う物など、のびのびフェスティバルに関する用具の置き場所を決めておく
- リレーやリズム表現、係活動など様々な活動を通じて、競い合うことの楽しさ、考えを出し合う面白さ、役立つ喜びを味わえるような機会を多くもつ○競い合うことの楽しさ、考えを出し合う面白さ、役立つ喜びを味わえるよう、リレーやリズム表現、係活動など様々な活動の機会を多くもつ
- ◎様々な活動の場で、自分たちでルールをつくることができるように、必要に応じて教師も一緒に考えたり、互いの思いを確認したりする
- 自然物に自ら進んで関わるができるよう、園庭の草花や木の実を使っているいろいろな遊びを工夫したり製作したりできる場を設ける
- 秋の自然に興味関心をもつことができるように、幼児が見つめてきた秋の自然物を紹介する場を設けたり、秋の自然物を飾るコーナーを作ったりする
- 稲の収穫を振り返ったり、稲の生長を感じたりすることができるよう、活動の写真や実際の米を提示しておく
- 1年生と一緒に遊んだ物を自分たちでも作って楽しむことができるよう、素材や用具を準備する
- 互いの力が発揮できるよう、5歳児と1年生と一緒に取り組めるような活動を設定する
- ◎5歳児も1年生と一緒に製作ができるよう、5歳児に1年生のしていることに挑戦できるよう声を掛けたり、1年生に5歳児のできることを伝えたりする

家庭との連携・地域との連携

- ・衣替え、着替え袋の中身の確認などについて、幼児が自分で保護者に伝えられるように声を掛ける
- ・のびのびフェスティバルに向けて頑張っている姿を伝え、家でも励ましてもらえるようにする
- ・里山メイトの方と連携し、活動内容や日程調整を行う

保健・安全・食育

- <保健>
 - ・歯の大切さを知り、進んで歯をみがこうとする(永久歯を守るために歯みがきをする)
- <安全>
 - ・公道の歩き方や横断歩道の渡り方を確認する
- <食育>
 - ・自分たちで育てたサツマイモを収穫する喜びを味わう
 - ・脱穀を通して1粒の米の大切さを知る

意図的活動

- ・のびのびフェスティバルに向けての活動(競技、表現、係活動)
- ・絵画や粘土など(のびのびフェスティバル)
- ・サツマイモ掘り
- ・飼育当番の引継ぎ
- ・里山プロジェクト(脱穀)

行事など

- ・のびのびフェスティバル
- ・秋の遠足

補助資料

- ・歌、手遊びなど・・・「パワフルパワー」「あきってすてきなおとがする」「虫のこえ」「はなさきやま」
- ・絵本など・・・「さつまいも」「さるかに」「はなさきやま」
- ・紙芝居・・・「カメレオンの王さま」「ばけくらべ」「ごへいとてっぼう」
- ・素材・・・段ボール
- ・用具・・・のこぎりカッター
- ・自然、栽培・・・ハツカダイコン、ドングリ、カキ、コオロギ、サツマイモ

(2) 教育課程について

新たに作成した指導計画を基に、見直しを行った。各学年とも大きな変化は見られなかったものの、4歳児では3年保育児と2年保育児が同じ学級となる環境の変化を踏まえ、安心して過ごせるようねらいを見直すと共に、育ちの過程を緩やかに捉えなおした。8ページにその例を示す。

教育課程編成例（2年保育4歳）

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
期		I						II				III	
		教師や友達と触れ合ったり、好きな遊びをしたりしながら、幼稚園生活に親しみ安定していく時期						周囲の人や身近な環境への興味や関心が広がり、自分の遊びを広げていく時期				身近な環境への興味や関心が広がり、自分の遊びを広げて深めていく時期	
発達の プロセス	自分づくり	○興味関心のある物と関わろうとする ○関わりを通して、人や身近な環境を知覚する						○人や身近な環境との関わりの中で自分の存在を認識する				○自分と他者との違いに気付く	
	人との 関わり	○場や物を共有しているがそれぞれ違うイメージや思いで遊ぶ ○友達と同じことをしてイメージを共有しようとする						○気の合った友達と同じ遊びを繰り返す					
	身近な環境 との関わり	○身近な環境に触れ親しむ						○物の特性が分かり、楽しむ ○いろいろな物に十分に関わり楽しむ					
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達に親しみ、触れ合いながら遊ぶことを楽しむ 新しい生活に興味をもち、喜んで登園する安心して生活する 身近な自然や動植物に触れ親しむ 						<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達と一緒に遊んだり、活動したりすることを楽しむ 自分のしたい遊びを楽しむ 身近な自然に興味をもち関わろうとする 				<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒にいろいろな活動や遊びを楽しみ、興味や関心を広げる 簡単なルールのある遊びなどを通して、ルールや約束を守って遊ぶ楽しさに気付く 友達と思いを出し合いながら、イメージを共有して遊ぶ楽しさに気付く 身近な自然の様子に興味をもって遊びに取り入れようとする 	
内容		<ul style="list-style-type: none"> 自分でできることは自分でしようとする したい遊びを見つけて遊ぶ 教師や友達と触れ合ったり、遊んだりする 教師や友達に親しみの気持ちをもつ 教師や友達の話を楽しみをもって聞く 教師が提示した環境に興味をもって関わる 自分のしたいことを伝えたり、分からないことを尋ねたりする 園庭の自然や動植物に触れ親しむ 						<ul style="list-style-type: none"> 自分でできることは自分でしながら生活する 気に入った場所やしたい遊びを見つけて遊ぶ 教師や友達と一緒にイメージしたものになりきって遊ぶ 友達と物や場を媒介にイメージを共有して遊ぶ 教師や友達と一緒に遊びに必要な物や場を作って遊ぶ 遊びの中で自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを知ったりする 園庭の自然や動植物に触れ親しんだり遊びに取り入れたりする 				<ul style="list-style-type: none"> 友達と考えを出し合って生活しようとする 気の合う友達とイメージを共有して遊ぶ 友達と一緒に遊びに必要な物や場を準備したり作ったりする 5歳児のしていることに興味をもち、真似たりいろいろなことに挑戦したりする 自分の思いを相手に分かるように言葉で伝えたり、相手の思いを聞いたりする 身近な自然や動植物に触れ親しんだり、それらを遊びに取り入れたりして遊ぶ 	

(3) 接続期カリキュラム（試案）について

国立教育政策研究所プロジェクト研究「幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究」、高知市、横浜市等の先進事例、各附属幼稚園紀要等を参考とし、本園の新教育課程、新指導計画を基に作成を行った。

i) 「接続期」とする時期の設定

接続前期である5歳児後期は、就学時検診の開始時期であること教育課程においてVI期（V）期の育ちへと向かう姿が見られる時期であることから、10～3月と設定した。

接続後期である第1学年前期は、4～5月のみを接続期とするのではなく、1学期間を見通し個の発達に応じた円滑な接続となるよう、4～7月の1学期間とした。

ii) 育てたい力

幼稚園と小学校の教育課程も含めた接続としていくためには、双方を貫く共通の視点となるものが必要であると考え、幼稚園と小学校を通じて育みたい力として、「生活する力」「関わる力」「学びに向かう力」を「育てたい力」と定めた。各項目については、下記の通り定義した。

「生活する力」…身の回りのことを自分で行い、自分なりの見通しをもって、集団の中で主体的に生活する力

「関わる力」…ひと・もの・ことと主体的・相互的にかかわり、自らの価値観を変容させていく力

「学びに向かう力」…好奇心・自己調整力・探究心など個の心情・意欲・態度に関する力

iii) 生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定

新小学校学習指導要領解説に“特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。”とあるように、接続期においては、幼児期の生活から徐々に小学校生活に移行していくことができるような配慮が必要である。「のびのびタイム」「わくわくタイム」「きらきらタイム」を設け、合科的・関連的な指導や弾力的な時間の使い方に配慮した。各項目は以下のように定義した。

「のびのびタイム」……一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことができるようなコミュニケーション活動の時間

「わくわくタイム」……生活科を中心とした合科的・関連的な学習活動の時間

「きらきらタイム」……教科等を中心とした学習活動の時間

iv) 環境の構成と教師の援助

前項でも述べたように、本園では幼児期における「主体的・対話的で深い学び」について研究し、「主体的・対話的で深い学び」を促す環境の構成と教師の援助について明らかにした。「主体的・対話的で深い学び」は今回の改訂で学校教育全体を貫く視点として位置づけられている。接続期において「主体的・対話的で深い学び」を促す環境の構成と教師の援助を行っていくことが幼児教育と小学校教育を円滑につなぐために有効であると考え、環境の構成のポイントと教師の援助のポイントを定めた。

v) 家庭との連携

幼稚園教育は家庭・地域社会・園が密に連携して展開されるものであり、新要領でも家庭との連携について多く述べられている。接続期においても家庭との連携を図りながら幼児・児童が安心して生活できるよう、家庭との連携の項目を設けた。

5. 研究の成果と今後の課題

本研究では、新要領に基づいた教育課程、指導計画の編成・作成を行うことができた。また、接続期カリキュラム（試案）を作成することができた。それらについては第2章に掲載する。

今後の課題としては、再編・作成したこれらを実践し、見直して改善を図っていくことが挙げられる。特に、接続期カリキュラムについてはまだ試案の段階であり、小学校と連携し、幼児・児童の実態に即したものにしていけることが必要である。

【引用・参考文献】

- 1) 2) 幼小接続期カリキュラム自治体調査, 堀越紀香, 2017
- 3) 発達や学びをつなぐスタートカリキュラム, 国立教育政策研究所教育課程研究センター, 2018
- 4) アプローチカリキュラム スタートカリキュラム 事例集 改訂版Ⅲ, 高知市教育委員会, 2017